

尾張健友会 介護老人保健施設ちあき ご案内



介護老人保健施設ちあき（2005年5月開設）

《施設》

- 病床：100床（ショートステイは空床利用型）
 *個室 36部屋（36床） 多床室 16部屋（64床）
- 1Fにデイケアセンター併設
 *リハビリに特化したデイケアとして、病院デイケアとは役割分担をしています。

《届出》

- 在宅復帰強化型老健（2014年10月1日許可）
- 在宅復帰超強化型老健（2018年 5月1日許可）

2018年4月の介護保険法の改定により、老健の役割は充実したリハビリを提供して在宅での生活ができるように支援を行う施設であると明記されました。



老健を利用するためには。利用目的は。

★入所には要介護認定が必要です。（要介護1～5の方が対象です）

★病院での入院・治療をおえて在宅にもどるにあたり、
もう少し看護・介護・リハビリを希望される方に利用
利用していただく施設です。

また、自宅にするか施設にするか迷われる方も、老健で
リハビリを行ってから判断されてはいかがでしょうか？

★今、在宅や他の施設におられる方でも、体の動きが落ちて
きた時、介護疲れのために、夏・冬を乗り切れないなど、
いろいろな理由の方がご利用になっています。

老健での生活の特徴

- 家にいる時と同じように、毎日普段着に着替えます。
- ごはんは、基本的には食堂で、一緒に食事をします。
- 排泄はなるべくトイレで。
- クラブ活動や各種レクリエーションで、メリハリのある日常生活を過ごせます。

療養棟のご案内



スタッフステーション



個室



障子でプライバシーも確保されています。

多床室



食堂

利用者様の日常生活の様子



立ち上がり訓練



カラオケ風景



歩行訓練



昼食時の寿司バイキング

老健でのリハビリについて

- 入所して3か月間は、リハビリ専門職による短期集中リハビリ訓練（週4～5回）が受けられます。
- 3か月を過ぎても、リハビリ専門職によるリハビリが週3回継続されます。
- また、クラブ活動、レクレーションなども定期的に行っていますので、是非、ご参加ください。

生活にメリハリの出るクラブ活動

囲碁・将棋・カラオケ・書道・ちぎり絵・Big Art・編み物・作品づくりなど
様々なクラブ活動を日替わりで週3回程度実施しています。



書道



将棋



オセロ



絵手紙

季節ごとのお楽しみ行事など



花見



夏祭り



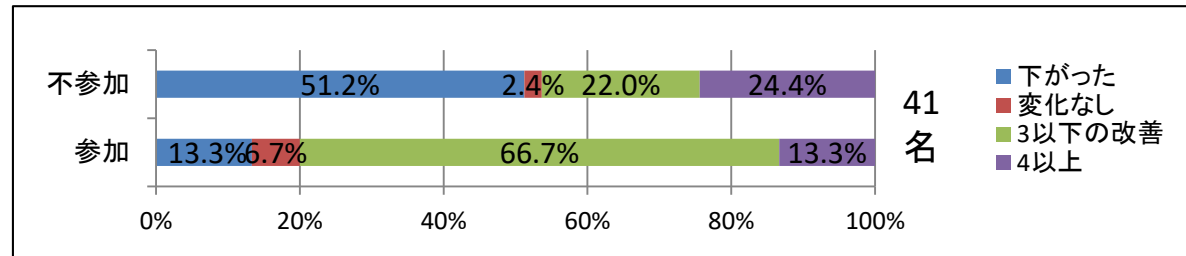
島文楽



老健杯

認知症プログラムへの参加の有無による認知症検査の変化

★認知症対策★



今や認知症の方は、予備軍も含めると65歳以上の三人に一人はいると言われています。

施設では、お薬ではなく、日常の中で、運動と脳トレとコミュニケーションという3つの視点からの活動の取り組みを通して、認知症の進行予防や改善に取り組んでいます。

実際、この取り組みに参加された方の8割に長谷川式スケール（認知症検査）の改善が見られました。

認知症予防プログラムに参加されなくても、日常活動の中でも改善は見込めますが、医療度が安定しておらず、活動に参加できない方は、改善が困難でした。

おおまかなご利用料金について

一か月あたりの費用の目安(入所後三か月まで)					1割負担の場合			
	4段階		3段階		2段階		1段階	
	4人室	個室	4人室	個室	4人室	個室	4人室	個室
要介護1	105,420	141,120	74,520	100,320	66,720	67,920	52,920	65,220
要介護2	107,670	143,280	76,770	102,480	68,970	70,080	55,170	67,380
要介護3	109,560	145,140	78,660	104,340	70,860	71,940	57,060	69,240
要介護4	111,240	146,850	80,340	106,050	72,540	73,650	58,740	70,950
要介護5	112,920	148,530	82,020	107,730	74,220	75,330	60,420	72,630
※上記の金額は、短期集中リハビリを週4回として計算しています。(3,900円)								
※はじめの1か月は、これに900円が加わります。(初期加算)								
※これ以外に、人により別途かかる費用もあります。								

※第1段階：生活保護等

第2段階：市町村民税世帯非課税かつ年金80万以下

第3段階：市町村民税世帯非課税かつ年金80万～266万

入所期間と利用の仕方

- 入所目的に合わせて1か月～3か月の期間で契約をします。
- 特養と違い、ずっと生活をするという施設ではありません。
- でも、一生ご利用できる施設です。
お身体の状態やご家族の都合などに合わせて、ご自宅と施設入所を繰り返しながら、ご希望があれば、最期のお看取りまで、お世話をさせていただいています。

退所される場合の支援は

- 担当の支援相談員が一人一人の状況に合わせて支援します。
- おうちに帰れない場合でも、その方にあった有料老人ホームなどの施設もご紹介できます。
- おうちに帰る場合も、ご家族の介護負担が軽減できるように在宅サービスの調整を一緒に考えます。

在宅にいても使える老健の短期入所

★ショートステイ(空床利用型) ★

(※要支援1・2、要介護1～5の方)



こんな方にお勧めです♪

- ◆普段はご自宅で介護を受けながら生活しているが、ご家族に急な予定が入ったりして“ひとりにさせておくのは不安”な場合。
- ◆介護を行っているご家族が体調を崩されたり、疲労が溜まってしまい、一時休暇（レスパイト）が必要なとき。

老健ちあきの入所者様の事例

日常に介護が
必要で
家に帰れなかった
Aさん

胃瘻がある
けど、ご飯が
食べたいBさん

寝たきりで
これ以上
良くなしないと
言われたCさん

その人らしさ
を取り戻した
Dさん

認知症のため、家族では
介護はできな
いと
入所された
Eさん

病院では、頻繁に
家族が呼び出されて
いたFさん

予後1か月と
言われて
看取り目的で
入所したGさん

施設入所が納得
できず、暴言が
収まらない
Hさん

日常に介護が必要なAさん

Aさんは、右半身マヒで車いすを自分でこいで日常生活を送られる方です。着替えやトイレなどの日常生活に職員の介助が必要でした。そのため、家に帰ることは考えられず、施設を転々とされていました。

老健ちあきに入られてから、麻痺があっても一人で着替えるやり方、トイレのしかたを訓練した結果、今では人に頼らなくても一人でできるようになりました。

人に頼らざるをえないと思っていたAさんは、自信が付き、この春、施設から家に帰ることができました。

胃瘻があるけど、ご飯が食べたいBさん

- Bさんは、入所時は胃瘻があって寝たきり。排泄もオムツの方でした。

Bさんの食べたい気持ちにこたえるために嚥下の検査をやりなおして食事開始の許可が出ました。

食べられるようになるのと、次はトイレに挑戦。トイレも自立できました。

今では、車いすを自分でこいで自由に動けるようになりました。日常生活ではレクリエーションにも参加され、以前のBさんからは想像できない元気な生活を送られています。

寝たきりでこれ以上良くならないと言われたCさん

- Cさんは、寝台車カリクラインングの車いすしか乗れず、寝返りもうてず、全てに介助が必要でした。問いかけに返答はあるものの、かみあわない反応でした。

それでもトイレに行きたいらしいという本人の気持ちを尊重し、二人で抱えてトイレにチャレンジしました。

トイレで排泄できるようになってCさんの表情も生き生きしてきて、コミュニケーションもとれるようになりました。

ある日、自分で車いすを動かして転落するというハプニングが。こんなこともできるようになったんだねとご家族と一緒に喜びました。（笑）

その人らしさを取り戻したDさん

Dさんは入所時には昼夜逆転しており、昼間はぼーっとしていて食事以外の日常生活は全介助、移乗は2人がかりで介助が必要な状態でした。

入所後、レクリエーション、リハビリ、立位訓練、クラブ活動などを通して、日中の活動や他者との関わりを活性化させるように心掛けて介護を行いました。

退所時には覚醒レベルが向上し、普通のコミュニケーションがとれるようになり、車いす移乗自立、自走して過ごすことができ、尿意便意も取り戻し、トイレで排泄できるようになりました。

日常生活動作だけでなく社会性も取り戻すことができ、生活の質（クオリティーオブライフ）が改善しました。

認知症のために、家族では介護できない と入所されたEさん

- 認知症の為に帰宅願望、介護抵抗が強く暴言・暴力もあり、家族も在宅では看れないとあきらめられていた利用者様でした。
- 本人の思いに寄り添い、帰宅願望時に外まで付き添い歩いたり、レクリエーションやクラブ活動を通して活動性や社会性が活性化される中で、スタッフとの信頼関係が築かれ、笑顔で穏やかな本来の姿を取り戻していくことができました。
- その結果、家族も在宅介護に自信を持つことが出来、無事笑顔で在宅復帰されました。

病院では、頻繁に 家族が呼び出されていたFさん

- 重度の認知症のため、病院ではしょっちゅう家族が呼び出されていたFさん。
- スタッフステーションから一番近いお部屋にしてスタッフの目が届きやすくして、丁寧に声掛けを行い、その方が落ち着いた生活に必要な観察を行いました。
- 今では、問題となる行動がなくなり、施設内ではシルバーカーを押しながら、自由に安定した毎日を送られています。

予後1か月と言われて 看取り目的で入所したGさん

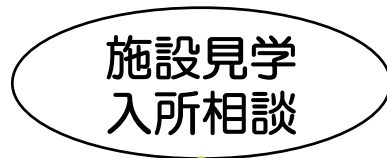
- 病院で食事が全く摂れなくなり、効果的な治療もないとの事で、余命1ヶ月と言われて入所されました。
- ご本人の生活ペースに合わせた食事時間の工夫、嗜好に合わせた食事の提供、安楽な姿勢の工夫など、できるだけ食事を摂っていただける環境づくりに力を入れました。
- 徐々に食事が摂れるようになり、結果半年以上も老健で穏やかに過ごすことができました。
- ご家族とも考えていた以上にご一緒の時間を過ごしていただき、最期までお世話をさせていただきました。

施設入所が納得できず、 暴言が収まらないHさん

- 生活が制限される施設に入所していることが受け入れられず、職員に対する不信感も強く暴言ばかり見られたHさん。
- 施設生活の中でも出来る限りの生活制限を無くし、Hさんに気持ちよく過ごして頂けるよう度重なる話し合いや声掛けを通し、信頼を築き上げるように努めました。
- 日に日に協力的になり、退所時には「ありがとう、沢山迷惑をかけてごめんね」と笑顔で在宅に帰られました。

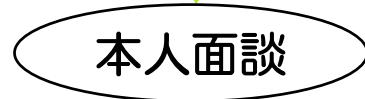
入所相談のご案内

*施設見学も行っておりますので、お気軽にお問合せ下さい。



Tel : 0586-76-8100

相談員：田中（タナカ）
伊藤（イトウ）



入所希望者様とお会いして、希望などお伺いします。



判定会議を行います。その後、結果を電話でご連絡いたします。

